

## 誰にも迷惑なんてかけていないと思っていました

私が初めて大麻を吸うようになったのは、高校3年生の時でした。私の高校は進学校でしたが、高校に入学してからは授業についていけず、段々成績も悪くなる一方でした。そんな学校生活もつまらなくなり、夜の街へ出てはクラブにも頻繁に出入りするようになりました。友達関係も変わっていき、私の周りには不良仲間だけが集まるようになりました。ある時、不良仲間数人と集まって遊んでいると、大麻の話で盛り上がり仲間の一人が、持っていた大麻をみんなに見せてきました。私は大麻を吸うということに罪悪感はなく、むしろ大麻を吸ったらどうなるんだろうという強い興味がありました。そして、その仲間が持っていた大麻をパイプに詰め、みんなで回して吸いました。大麻を吸ってみると、「頭がボーっとする」といった感覚を味わったくらいで、その時は「大麻ってこんなもんだ」としか思いませんでした。私は高校を卒業してからも特にやりたい事もなく不良仲間と付き合い、大麻を吸って遊んでいました。

そんな生活も飽きてきて、気晴らしに米国へ旅行に行きました。夜、街をふらついていると大音量が流れている店を見つけ、気になり店の中を覗いてみました。店の中では客が楽しそうに酒を飲みながら大麻を吸っているので、私もその雰囲気にもまれ、客の一人から大麻を分けてもらい一緒に大麻を吸いました。すると、日本で大麻を吸ったときの感覚とは違い、「リラックスできる、目に入る光がいつもより眩しく見える」といった今までにない大麻の効果を得る事ができました。私はこの時吸った大麻の効果に感動し、日本に帰ってからもこのような効果の強い大麻を吸いたいという思いから、客の一人から大麻種子を手に入れ日本に持ち帰りました。私は、大麻関連の本等で栽培方法を調べ、大麻の栽培を試みました。栽培に成功した大麻は米国で吸った時の大麻と同じ効果があり、私が栽培した大麻は大麻を吸う仲間にも評判が良く、売って欲しいという注文も多く来るようになりました。自分の栽培した大麻が周りからも評判が良いので私自身も鼻が高く、もっと工夫して上質な大麻を栽培しようと思い、本格的に大麻を栽培するようになりました。栽培した大麻を売ってお金を儲けることに欲が出てきた頃には、私自身も以前よりも大麻を吸う回数や量が増し、また身体の具合も悪くなり痰が真っ黒になっても毎日大麻を吸わずにはいられなくなり、生活もすさんできました。この頃から私の両親や彼女から、「変な薬物をやっているんじゃないか」と疑いの目で見られ何度か注意されましたが、「別に誰にも迷惑掛けていないからいいだろ」と思い、私の頭には大麻のことしかありませんでした。

そんな生活をしていたある日、いつものようにクラブで仲間と大麻を吸い自宅へ帰った時、麻薬取締官に呼び止められ、自宅を搜索された結果、多くの大麻が見つかり逮捕されました。

逮捕後、親や彼女が面会に来てくれた時、私の事を大変心配して、泣き崩れる親や彼女を見て、この時ようやく私は自分自身だけではなく、周りの人間も傷付けてしまい、惨めな思いをさせてしまったと痛感しました。そして私は自分の取った行動に後悔すると共に自責の念に駆られ涙を流しました。今は私の身勝手な行動から親や彼女の気持ちに応える為にも、今後2度と興味本位で薬物には手を出さないと強く心に誓っています。今回逮捕され、自分の愚かさを身を持って知った今、特に若い人には、一度くらいならとか興味本位というだけで安易に薬物には手を出して欲しくないと切に願っています。

(20代 男性)